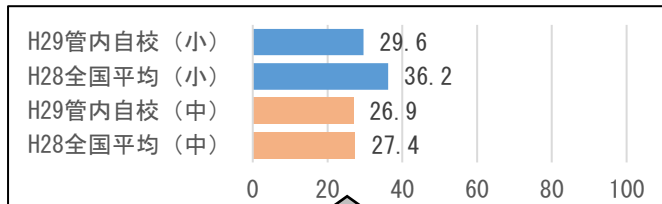


平成29年度全国学力・学習状況調査

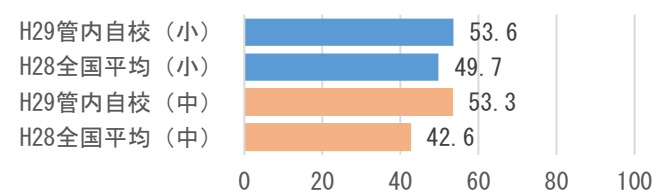
【ひだかプラン～子ども一人一人の学力を伸ばすための5つの視点～】

<1 子どもたちが安心して学習できる環境づくり>

☆ 自分にはよいところがある。(児童生徒質問紙)



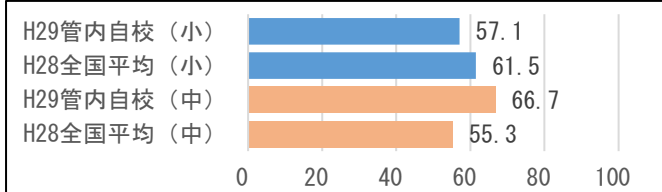
☆ 児童生徒のよさ・可能性を積極的に評価している。(学校質問紙)



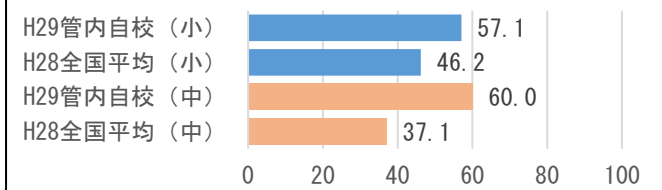
○ 子どもたちのよさを積極的に評価する教師の姿が、児童生徒の自己有用感を高めるとともに、失敗を恐れず、学習課題に自ら取り組もうとする意欲を喚起します。

<2 PDCAサイクルを踏まえた校内体制づくり>

☆ 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している。(学校質問紙)



☆ 調査結果を学校全体で活用している。(学校質問紙)



○ 学校として重点的に育成を目指す資質・能力、育成に向けた課題を共通理解するとともに、全国学力・学習状況調査等の客観的な検証と日常の授業を関連付けたPDCAサイクルを確立することが大切です。

《各教科の平均正答率》

教科	<小学校第6学年>			<中学校第3学年>			
	H28全国	H28日高管内	H29日高管内自校採点集計	教科	H28全国	H28日高管内	H29日高管内自校採点集計
国語A	72.9	65.6	70.1	国語A	75.6	71.1	69.8
国語B	57.8	52.5	49.1	国語B	66.5	60.1	60.9
算数A	77.6	69.5	73.0	数学A	62.2	54.5	56.1
算数B	47.2	41.1	38.6	数学B	44.1	38.3	40.3

○ 調査において、成果や課題が見られた問題や児童生徒質問紙の回答状況を、全教職員で分析し、学校として育成を目指す資質・能力を重点化することが大切です。

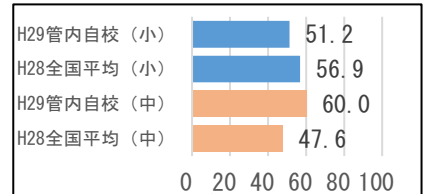
<3 子どもたちの思考を促し理解を深める授業づくり>

【めあて・ねらい】

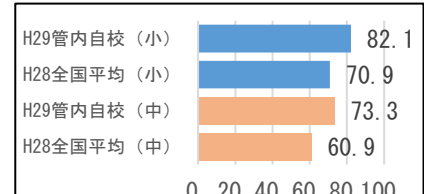
【自己解決・話し合い】

【まとめ・振り返り】

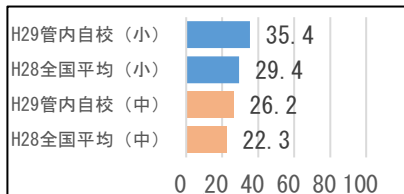
☆ 授業のはじめに授業の目標(めあてやねらい)が示されている。(児童生徒質問紙)



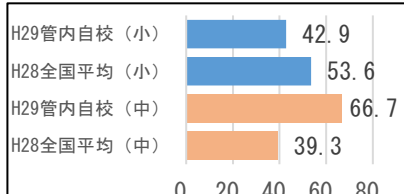
☆ 目標(めあてやねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れた。(学校質問紙)



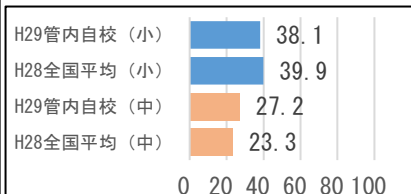
☆ 授業では、話し合いながら整理して、発表する学習活動に取り組んでいた。(児童生徒質問紙)



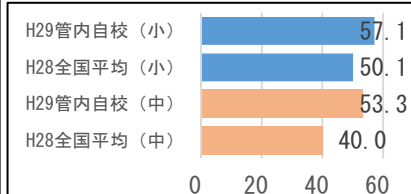
☆ 学級やグループで話し合う活動を授業で行った。(学校質問紙)



☆ 授業では、最後に学習内容を振り返る活動を行っている。(児童生徒質問紙)



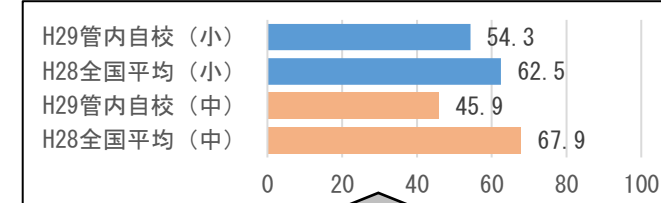
☆ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。(学校質問紙)



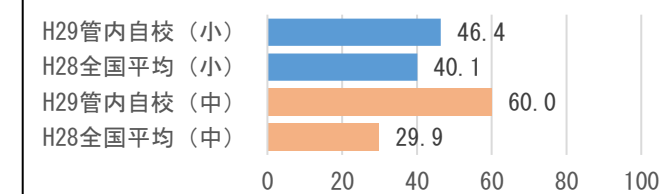
○ 児童生徒の視点に立ち、日常の授業を見直すことが大切です。
 ・児童生徒が主体的に取り組むことができる学習課題の設定により、単元のまとめや1単位時間において、課題解決に向けた見通しをもたせること。
 ・予め個人で考えたことを、友達と伝え合う活動を通して、考えを広げたり、深めたりすること
 ・「どのような学習を通して」、「どのような力が身に付いたのか」を振り返り、児童生徒が自らの変容を実感すること。

<4 主体的な学習を促すための取組>

☆ 学校授業以外で、平日1時間以上学習している。(児童生徒質問紙)



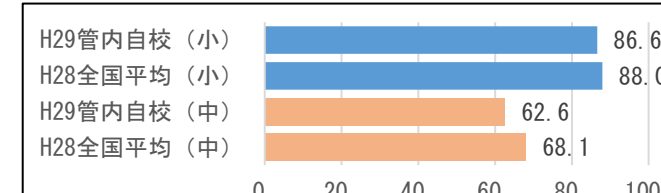
☆ 児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えている。(学校質問紙)



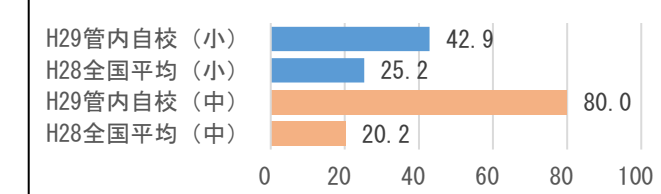
○ 家庭学習の成果が日常の授業に生かされるよう、児童生徒に授業の予習や復習の方法を具体的に示し、家庭学習に取り組んだことへの達成感や有用感を感じられるようにすることが大切です。

<5 学力向上に向けた学校・家庭・地域の強い連携>

☆ 家で、学校の宿題をしている。(児童生徒質問紙)



☆ 学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った。(学校質問紙)



○ 学校として育成を目指す資質・能力や、育成に向けた取組を積極的に情報発信し、学校・家庭・地域社会が目指す児童生徒像を共有することが大切です。